

《藩政時代の遺産が息づく水の構図探勝》

福岡から南に 60 分の所に位置する城下町柳川は、中心市街地 2km 四方に延長 60km にわたって堀割が縦横に張り巡らされた水と共生する世界有数の水路のまちです。

このお堀は、今から約 420 年前の藩政時代に筑後地方を治めるための柳河城築城のうちに、城下町を形成するために人工的に堀を掘って整備されました。そこには、治水・利水のための水利体系が整備され、先人の知恵による様々な仕組みが今なお息づいています。

お堀に架かる橋を注意して見ると、橋は川幅よりかなり狭く造られ V 字型に成っています。これは、水の流れを狭い入り口で留め、橋の下では流速を増して酸素を取り入れ（溶存酸素）、水を浄化する機能があります。また、上部が広く成っているのは、水嵩が増した時に流れ易くするためです。

干満の差が 6m にも及ぶ有明海の満潮時は、陸地より海水面が高く、干潮時に排水し満潮時には、海水の流入を防ぐ堰が設置されています。これらの堰は、およそ 100 基にもおよび、堀の水利システムを維持する精密機械の様に働きます。

それでは、柳川旅情と共に、先人達の素晴らしい知恵に思いを巡らし、船頭が案内する心に残る「水の構図探勝」をお楽しみ下さい。

柳川の川下りは、堀めぐりです。七曲り、七巡りして下って行きます。その中でも、①柳川橋を過ぎて広がる水門までの、白秋が「色にして 老木の柳うちしだる 我が柳河の水の豊けさ」と詩った城郭防衛の最前線鋤先土居から城堀水門まで、船の位置から見る独特の光景は、柳川の地に來た実感に浸ることでしょう。

②柳川の歴史遺産で垂直に積まれた江戸初期の石積み技法を今に伝える船幅いっぱいの柳川城堀水門（瀬高門水門）を下り城内に入り、お堀が、城堀、内堀、中堀、外堀と分かれる。南に下り舟から見る光景に心が和みます。

③そして、見えてくる並倉。それも、夕日に映える水の景色は絶品です。写真撮影のお勧めポイントでもあります。

④内堀に入り、西原邸、小野さん屋敷から、遊歩道（日本の道百選）へ出ていく、川幅も少し広くなり、ゆったりと流れて行きます。

⑤晩秋には、日吉神社の辺りに紅葉が始まり、また、花嫁さんとも出会える、思い出に残るメモリーポイントです。ここは、静かに、想いに浸りながら行きたい所です。

⑥一番狭い弥兵衛門橋を緊張しながらくぐって行くと、広々とした西に（佐賀藩に対しての防衛を意識したつくり）南に曲がりながら下って行きます。

⑦やがて柳河藩主立花邸「御花」がある、国指定名勝「立花氏庭園」が見えてきます。約 7,000 坪あり、お堀の水を取り込んだ池泉回遊式庭園などがあります。

水郷柳川観光株式会社 福岡県柳川市三橋町下百町 1-6（下百町交差点北側）

TEL0944-73-4343 NETFAX050-3730-5754 FAX0944-72-0744

URL <http://kawakudari.com> E-mail yoyaku@kawakudari.com